NIE実践報告

1．タイトル：自分の考えをもたせる手立ての工夫

2．学校名

松戸市立馬橋北小学校

3．実践者名（代表者名）

中澤智章

4．学年

教務

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語・社会・理科・総合・道徳・図工、　232名

6．単元（本時の学習課題）名

自分の生活とつながりをみつけて考えてみよう。

7．目標(狙い)

世の中で起きていることを「知る」ことから始め、自分の生活と関係していることや共通していることを見つけ出し「感じる」ことに重点を置く。「書く」という表現を通して集団の中で多角的な考えを認識していく。

8．評価の視点

論理的に自分の考えを書いている。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

年間指導計画上には「総合的な時間」で位置付けている。しかし他教科でも、頻繁に記事を用いている。また、廊下掲示にも積極的に取り入れている。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①読売新聞「よみうり寸評」を読んで感じたことを書く。わからない語句は調べる。記事は書き写す。この活動を継続していく。
②コラムや社説等の記事を読み、いろんな考え方や生き方があることを知る。感想を書く。
③ノート指導を重点的に行い、論理的な表記の仕方を構築する。
④図工では新聞の全面広告を比較して感想をもたせる。
（留意点）
・命やいじめ、家族に関することには敏感に反応することがわかっているので、導入としては扱いやすい。
・反面、産業や経済、政治に関する分野には、自分の生活との関連性を見つけることが困難なので、学習の中の発展課題として問い扱うのもよい。
・自分の考えを他の友だちと比べ、共感したり、疑問を抱いたりしながら、考えを深めていけるような場を設定する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・小学校高学年児童に対しては、新聞記事のコラムや社説等は学びの教材として新鮮であり、かつ意欲的に取り組める魅力がある。

12．成果と課題

・記事の選択を指導者側で選ぶ方法と、児童の自由な選択にする方法とでは、ねらう意図が異なるので、児童にどんな力をつけさせたいのかを考えて、新聞の活用を考えた方がいい。新聞の記事は、新鮮さが大きな魅力なので、学習のねらいを立てたら、そのねらいに該当する記事を日々活用するしかない。年間指導計画として、どの単元にどの記事を活用するか・・・という方法では、教科書とほぼ同じ扱いとなってしまう。